



No.70
2014.4.10

SEA NEWS



- ① … 彩の国カップ～天皇杯県代表決定・「差別、絶対ダメ!」・理事会開催
- ② … 「上から下から埼玉サッカーを考える」～前第1種委員長・天沼達也氏と前第4種委員長・秋山和雄氏
- ③ … ユメセン@さいたま市立田島中学校
- ④ … 東京国際大学 前田秀樹監督インタビュー
- ⑤ … 大会記録 ● 県内大会 1種社会人・大学・2種高校・4種
- ⑥ … 女子・2種 大会記録 ● 県外大会 フットサル 高円宮杯 U-15リーグ2014開催中
- ⑦ … 浦和レッズジュニアユース 大橋浩司監督インタビュー
- ⑧ … インフォメーション 編集後記

●発行/発行人:会長・相川宗一 編集人:荒川裕治 ●発行所/(公財)埼玉県サッカー協会 〒330-0074 さいたま市浦和区北浦和1-21-18雁ヶ首ビル204号室 Tel048-834-2002-Fax048-834-2004 <http://www.saitamafa.or.jp/>

さいたまSCが7年ぶり7度目の出場を果たす ～平成26年度彩の国カップ第19回埼玉県サッカー選手権大会

3月30日、雨の中で開催された「平成26年度彩の国カップ第19回埼玉県サッカー選手権大会」は、社会人代表のさいたまSCが、2年連続3回目の出場を目指す大学代表の東京国際大学を退けて優勝を果たした。

試合は80分にさいたまSCのGK小川駿が退場したものの90分で決まらず、20分間の延長、さらにPK戦にもつれこんだ。さいたまSCも一人外したが、東京国際大学は二人外してしまい、最後はさいたまSCの大野恭平が決めて歓喜の輪を作った。

この結果、さいたまSCが第94回天皇杯全日本サッカー選手権大会に埼玉県代表として出場することが決まった。

東京国際大学 0 - 0 さいたまSC
(3PK4)



優勝した さいたまSC



決勝 さいたまサッカークラブ vs 東京国際大学

「差別、絶対ダメ!」

埼玉スタジアムでの浦和レッズ主催試合において、差別的な内容の横断幕が掲出されました。「フェアプレー日本一を目指します」と掲げているSFAとしては残念なことでした。

【Jリーグからの制裁内容】

2014年3月8日(土)16:00キックオフ 埼玉スタジアム2002にて行われた、Jリーグディビジョン1 第2節「浦和レッズ vs サガン鳥栖」の試合において、浦和レッズサポーターにより「JAPANESE ONLY」という差別的な内容の横断幕が、ホーム側ゴール裏席に向かう入場ゲート上コンコースに向けて掲出された。横断幕の掲出は、14:00～15:00の間から試合終了後まで続いた。

- (1) 譴責(始末書を取り、将来を戒める)
- (2) 無観客試合の開催(入場者のいない試合を開催させる)

平成25年度 第2回通常理事会開催

2月24日に、さいたま共済会館において、理事会が開催された。第1号議案 平成26年度の事業計画(案)について

受託事業として主なものは、5月の日本代表戦(キプロス戦)、9月の日本スポーツマスターズ、1月の全国高校サッカー選手権大会が挙げられた。

第2号議案 平成26年度収支予算(案)・資金調達及び設備投資見込みについて

予算としては、経常収益合計が309,946,000円、経常費用合計308,532,000円。当期一般正味財産増減額は1,414,000円。消費税8%計上でも214,000円の黒字予算となることから承認された。

第3号議案 専門委員長・種別委員長の選任について

フェアプレー・規律委員会 柴崎康之	
財務委員会 小高達朗	技術委員会 坂庭 泉
審判委員会 岡田 泉	広報委員会 荒川裕治
施設委員会 二瓶省三	医事委員会 関 純 (新任)
科学委員会 西川誠太	総務委員会 松本利春
1種委員会 小島 功 (新任)	2種委員会 森田洋正
3種委員会 柏 悦郎	4種委員会 東島雅之 (新任)
女子委員会 矢嶋理子	シニア委員会 大木正幸
フットサル委員会 高橋昭夫	

第4号議案 ミッション特別委員会及び委員の選任について

委員長 横山謙三	委員 星野隆之
委員 柴崎康之	委員 小高達朗
委員 坂庭 泉	委員 岡田 泉
委員 荒川裕治	委員 二瓶省三
委員 関 純 (新任)	委員 西川誠太
委員 松本利春	

第5号議案 公益財団法人埼玉県サッカー協会規定等改正(案)について

別途、公式ウェブサイトに掲載予定

「上から下から埼玉サッカーを考える」

～前第1種委員長・天沼達也氏と前第4種委員長・秋山和雄氏

今回第1種委員長を退任する天沼達也氏と第4種委員長を退任する秋山和雄氏に、それぞれの種別の現状とこれからの埼玉サッカーに向けての提案を行っていただいた。

—お二人ともお疲れ様でした。といっても、これで勇退ということではなく、様々な形で関わっていただけたらと思っています。そこで、お二人からそれぞれの現状とこれからをお聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いします。

天沼「まずは、東京国際大学が関東大学1部に昇格したのはうれしいことです。ただ、彼ら大学生全般を見て思うことは、技術は確かに上がっていますが、自分で考えることが無くなっているような気がします。私は東京都大学リーグの1部にいましたが、『サッカーを真剣にできるのは、ここまでかもしれない』と思ってやっていたからですね。それも監督がいまいませんでしたから、毎日部員同士で激論をかわしていたものです」

秋山「大人なんだからね。自分で考えてほしいものです」

天沼「ただ選手を集めて、お金をかけて監督を連れてくるということではなく、社会人登録もしてもらって、各リーグに参加してほしいと思っています。併せてグラウンドも作っているじゃないですか。県全体としてサッカーができる環境はもっと必要です。そういうチームにOBが入ってプレーするようになり、そのチームが一つずつ昇格してくればいいのです。チームが増えてほしいですし、選手たちにはサッカーを続けてもらいたいと願っています」

秋山「トップだけでなく、地域で楽しむチームがあってもいいということですね。それで底辺が広がるでしょう」

天沼「4種の登録数は増えていますか？」

秋山「増えています。今、530くらいですね。1種、社会人はどうですか？」

天沼「ピークで550ものチームが登録してくれていましたが、今年は350程度でしょう。昨年、400を切りました。フットサルに行く子どもたちが増えているんですね。"サッカー"は少なくなっていますよ」

秋山「5人でできる手軽さがいいんですか？」

天沼「それはあります。県内を見ていてフットサル場は増えていますが、サッカー場は減っているんですね。これは地域の責任だと思っています。

SFAとしても今は専用グラウンドがない状態です。もっと借りられるグラウンドを増やしていかなければ、サッカーを続けられないのですから」

秋山「4種だとその市町によって、学校開放の方法が違うんですね。例えばさいたま市では、浦和と与野は土日で子供たちの野球とサッカーが話し合いをして譲ったり、譲られたりしています。しかし、大宮だと公民館預かりとなり、大人が使っているんですね」

天沼「その市町によって、感覚が違うんですね。例えば行田は野球がすごいんですよ。女子の硬式野球もやっていますが、サッカーができる場所はないんですね。隣の熊谷に借りにくるぐらいですから。

SFAとして、しっかり市町村のスポーツ振興課と話し合って、もっとサッカーに使



埼玉県第4種サッカーリーグ選手権大会決勝

わせてもらえるよう働きかけてもらいたいものです。各市町にあるサッカー協会でも交渉するには限界がありますし、県内にはまだ協会のないところもあるのです。やはりSFAに期待しているところは大きいのです」

秋山「4種リーグを始めるときに、協力要請をするという話でしたが、どうなっているのでしょうか」

天沼「施設利用の調整も大事ですが、施設そのものを増やす、使えるグラウンドを増やす考えをもってほしいものです。それが普及につながり、登録につながっていくのですから」

—施設の問題というところが、2種、3種と決定的に違うところですね。

天沼「私は3種のチームを持っていますが、クラブは厳しいです。中学校ならばグラウンドがありますからね。ただ、サッカーが盛んかどうかで利用方法が違ってくるわけで、うらやましいことです。

改めて思うことは、やはりグラウンドが必要だということです。場が無ければ、やりたくてもできませんし、続けたくても続けられないわけです」

秋山「4種は増えていますからね。続けられる環境がほしいものです。3種でできる場がないということになったら、これだけサッカーがメジャーになった時代に、それこそ不幸だと思うのです」

—選手のレベルの話をお聞かせください。確実に上がっていると思うのですが、いかがですか。

秋山「リーグ戦の導入はよかったですと思います。その成果は出ていると思います。ただ、今年からは4種リーグは8人制にしますから、試合に出られない子どもが増えることになると思われるので、そこは心配ですね。もともとはできるだけ多くの子どもたちに公式戦を戦ってほしいとの願いで始めたものです。2015年からは県内のリーグ戦に参加していなければ、全日本少年大会の予選に出場できないことになっています。こういう条件をつくることもまた、いいのかどうかははっきりしていない状況です」

天沼「今年で何年目ですか」

秋山「8年目ですね。ですから、もう社会人や大学でも、4種リーグを経験した選手が出てきていると思います」

天沼「試合環境がよくなっていることは理解しています。あとは指導者ですね。もっと一人の子どもをしっかり見てあげる必要が



秋山和雄 前第4種委員長

あると思います。戦術がどうのこうのという話も聞きますが『そうじゃない』と言いたくなることがあります。自分で伸びる子どもは簡単なんです。でも、自分で上手くできない子どもにどう伝えるのか、教えてあげるのが大事なんです」

秋山「そう思いますね。ただベースとしては、楽しくないといけないと思います。だから大会の挨拶では『楽しんでください』というようにしています。逆に言えば、指導者が楽しませているのかどうかです。自分が怒鳴っていることを楽しんでいるようでは困るのです」

天沼「教えられたこと、身に着けたことしかできないんですからね。今、言われてもできるものとできないものがあります（笑）」

秋山「ホント、そうです（笑）。怒鳴れば怒鳴るほど、その指導者が日頃何もやっていないということさらけ出しているようなものです」

天沼「とにかく4種のところで『サッカーは楽しい』と思ってもらえることが第一です。上手くなることで『楽しい』と思う子どもいでしょう、ただドリブルし続けていても『楽しい』と思う子どもいます。ここで楽しいと思ってくれないと、3種、2種までは行っても1種までは続けてもらえませんね」

—先ほどの話ではありませんが、高校を卒業してから続けてくれる子どもたちが少ないです。魅力が無いのかどうなのか。

天沼「そんなに好きじゃないのか（笑）。社会人でもプレーしてもいいなって思えるものがないといけないと思います。だから、埼玉からJFLにチームを送り出したいと思っていますし、関東



第1種 社会人連盟会長杯決勝

へももっと多くのチームが昇格して活躍してくれることを願っています。『あいうとところでやれるんだな』ということがもっと身近になれば、やってみようと思ってくれる子どもも出てくると思うんです」

秋山「レッズやアルディージャに入ることは難しいですから、近い存在のチームがあるといいですね。または『あのチームでやりたい』と思えるチームが出てくることです。熊谷からもがんばっているんですよ」

天沼「スタジアムはあるんですけどね……もう少し時間がかかります」

—最後になりますが、何か提案したいことはありませんか。

秋山「グラウンドの利用についてのモラルが全体的に低いような気がします」

天沼「『社会人（チーム）で教育していないからいけないんだ』と言われたことがあります。しかし思うに、高校で教えられていないから社会人になってできないのです。そもそもチームは教育する場ではないですからね（苦笑）。ただ、高校を出たばかりの選手たちは、わかっていないのが現状です。社会人でやらないといけませんね。あと、会議での議論が少ないですよ」

秋山「黙っていられるのは困ります」

天沼「社会人連盟ならば、2,000人の意見を吸い上げなければいけません。逆に登録している人は代表者に対して『聞いてこい』と言わないといけないのです」

秋山「意見が出てこないと考えているのかどうか、わかりません」

天沼「サッカーと同じで言い合わないとダメですね」

秋山「だからこそ、チームになって戦えるのだと思うのです」

—埼玉も全体がしっかり“チーム”となって、いかなければならないということですね。すみません、まとまりませんが、ありがとうございました。引き続きよろしくお願いします。

●ユメセン@さいたま市立田島中学校

～法師人美佳さん、島田裕介さん

2月26日、田島中学校において「ユメセン」が行われたので、お邪魔しました。講師は元浦和レッズレディースでSFA職員でもあった法師人美佳さんと、大宮アルディージャなどで活躍した越生町出身の島田裕介さんでした。田島中学校では二年生全クラスで行われていたそうです。

今回はまず島田さんが中心になって、体育館で「しっぽ取り」の鬼ごっこなどで身体を動かしながら、コミュニケーションを図りました。その中で、クラス全体の「チームワーク」「一生懸命やること」を促し、またそれらが達成できたことを褒めるという場面を見せてもらいました。

教室では、法師人さんが96cmしかなかった小学校一年生のとき、サッカーに出会い、紆余曲折しながら、女子選手として頑張ってきた話をお聞きました。「小さいのに」「女の子なのに」という偏見は、今では考えられませんが、つい最近までであったということです。そういうイヤな思いを乗り切って、夢をつかんだという話に子どもたちが真剣なまなざしで聞いていたことが印象的でした。

「ユメセン」のにご興味のある方は、JFAまでお問い合わせください。



今年から関東大学1部、 しかも埼玉県勢初の関東大学リーグ1部昇格

～東京国際大学 前田秀樹監督に聞く

「この1部をチャレンジできることに感謝しよう」

—遅くなりましたが、おめでとうございます。

「ありがとうございます。昨年2部に昇格して、1年で1部に上がったことで注目いただいています。おかげで改めて、大学の可能性を感じさせられているところです」

—具体的にはどういふことですか。

「日本のスポーツそのものを変えていかなければならない状況の中、大学の位置づけがもっと大事になるのではないかと考えているのです。」

これまで企業も大学も、アスリートのみを育成していました。要は下手な選手は外されてしまっていたのです。これではごく一部の人にしかスポーツに関わってもらっていないことになり、生涯スポーツという面でもいいことではないのです。スポーツ先進国のドイツのシステムにおいては、スポーツシュレという素晴らしい施設があります。しかし、日本で真似ができるのかと言われれば難しい。でも、日本には学校があるのです。

今年は部員が400人になります。全員がトップチームではありませんが、レベルに応じたプレーができる環境を作らなければならないと考えています。というのは、一度楽しみを知れば、彼らの子どもたちにも循環するのです。彼らを見てみると、グラウンドに来るのが楽しそうなんです。だから自主的に学ぼうとするのです。これが大事なんです。そういう場を作りたいと考え、大学が重要なのだと思うのです。

これまで9チームでしたが、今年は11チームになりました。正直、グラウンドが足りません。そこでトップチーム以外の4年生だけのチームを一つ作りました。彼らは比較的授業が少ないので、14時から練習できるようにしたのです。どう回すかです(笑)。こういう広がりを持たせることによって、大学がグラウンドを作っていくしかないのかなと思っているのです」

—なるほど。そのためにも結果も必要になりますね。さて、昨年を振り返っていただきたいと思います。こういう1年になると思っていたら良かったですか。



彩の国カップ決勝 東京国際大学 vs さいたまSC



東京国際大学

「今までの埼玉勢を見ると、関東の2部に昇格しても厳しい戦いをしてきました。確かにフィジカル、スピード、テクニック…県のレベルではないですからね。正直、通用するのかと不安はありました。」

開幕戦、学芸大学に逆転勝ちできたことで勢いづいたと思います。試合をやっていく中で自信をつけていったと思います。いい意味で予想外でした。あと、総理大臣杯で勝ったこと(本大会に出場できたこと)、自分たちのやり方で勝ったことが自信になっています。また相手によってシステムを変えたりしたことで、控え選手が『次は自分か』と思ってくれて、モチベーションが上がったのだと思います。実際、『指定席はないよ』って言ってしまったので、チーム内競争もありました。

しかし、総理大臣杯で関西大学に負けて、天皇杯も1回戦で負けてと続いたときは雰囲気が悪くなりましたね。東京農大との試合で相手のファールをアピールしている間に失点してしまったり……。そこでまずは『相手に勝たせないようにすればいい』という話をして、守備を徹底させたんです。そこから耐えて耐えてという中から結果が出るようになりました」

—前期は平成国際大学とのドローまで8連勝(不戦勝含む)と突っ走った分、後期は大変だったんですね。それでも1年で駆け上がったことは素晴らしいことです。

「今年は最高峰です。未知の世界ではありますが、どう戦おうか。簡単にはいかないでしょうが、やるからには勝ちます。我々はチャレンジャーです。この1部をチャレンジできることに感謝しようと言っています。思い切ってやろう、ですよ。」

とにかく着実に伸びてきているのは間違いありません。その中で、阿部(正紀)がFC岐阜に入り、もう試合に出ています。あの阿部がJ2で通用しているということが、選手たちにも刺激になっていますね(笑)」

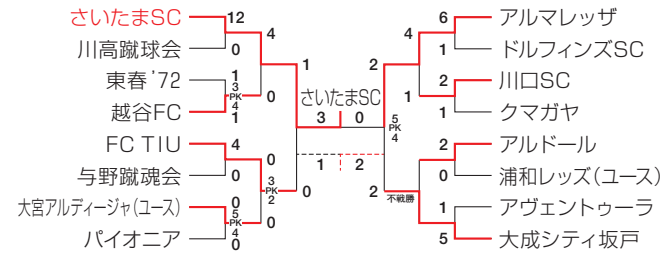
—ありがとうございました。今年の関東大学1部を楽しみにしています。

大会記録 ● 県内大会

1種・社会人

埼玉県社会人サッカー連盟会長杯選手権大会

1月12日～3月16日 熊谷スポーツ文化公園他



※優勝したさいたまSCは社会人代表として彩の国カップに出場する。

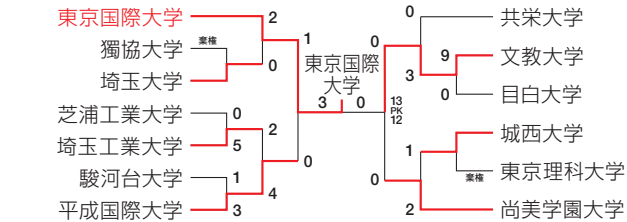


決勝 さいたま SC vs アルマレッザ

1種・大学

第19回彩の国カップ大学代表決定戦

3月2日～23日 東京国際大学サッカー場他

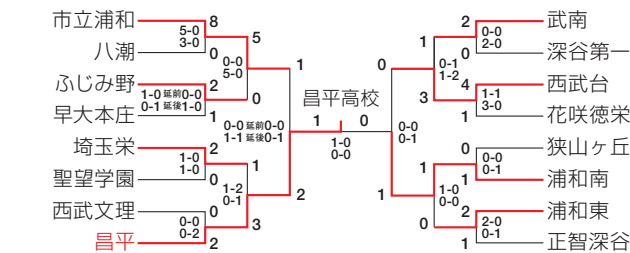


※優勝した東京国際大学は大学代表として彩の国カップに出場する。

2種・高校

平成25年度埼玉県高等学校サッカー新人大会

2月11日～19日 西武台高校第2グラウンド他



※昌平高校は初優勝



決勝 昌平高校 vs 浦和南高校

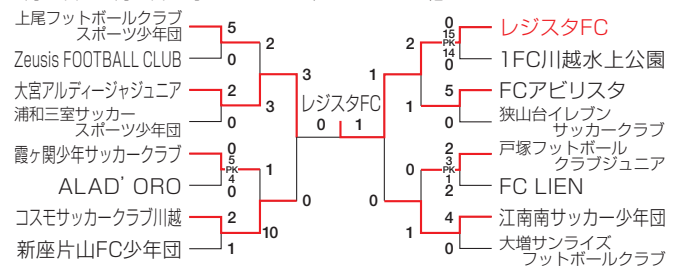


決勝 昌平高校 vs 浦和南高校

4種

第8回埼玉県第4種新人戦

2月22日～3月1日 埼玉スタジアム第4グラウンド他



※レジスタFCは2年ぶり3度目の優勝

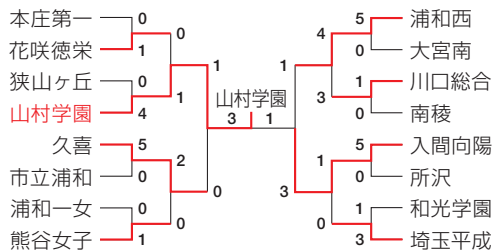


決勝 レジスタ FC vs 大宮アルディージャジュニア

女子

平成25年度埼玉県高校女子新人戦

1月12日～2月19日 さいたま市堀崎公園サッカー場他



※山村学園は初優勝



準決勝 入間向陽高校 vs 浦和西高校



決勝 山村学園高校 vs 入間向陽高校



準決勝 山村学園高校 vs 久喜高校

大会記録 ● 県外大会

2種

2013年度関東U-16トレセンリーグ

4月29日～2月23日 関東各地

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	埼玉	5	0	0	18	5	+13	15
2	山梨	2	2	1	12	13	-1	8
3	神奈川	2	1	2	18	12	+6	7
4	千葉	2	1	2	12	10	+2	7
5	群馬	2	0	3	10	11	-1	6
6	茨城	2	0	3	10	15	-5	6
7	東京	2	0	3	9	14	-5	6
8	栃木	0	2	3	6	15	-9	2

※埼玉県は初優勝。

●【個人賞】※ 埼玉県関係のみ

MVP : 黒川 淳史 (大宮アルディージャユース)

BEST GK : 加藤 有輝 (大宮アルディージャユース)

BEST DF : 東 伸幸 (浦和レッドダイヤモンズユース)

フットサル

第8回U-23長野オープン全国選抜大会

2月9日～11日 長野市ホワイトリンク



※埼玉県選抜は5年ぶり3回目の優勝

高円宮杯U-15サッカーリーグ2014 埼玉県ユース(U-15)サッカーリーグ、開催中

2014年度より、3種のチームすべてがリーグ戦に参加することとなりました。すでに立ち上がっていた1部リーグ(10チーム)に加え、2部リーグ(10チーム)も立ち上がりました(共にホーム&アウェイの2回戦)。この下に3部リーグ(計56チーム)として、SCL(中体連)の東西南北(各8チームで1回戦)、CLA(クラブ)のI、II、III(各8チームで2回戦)と

● 1部リーグ

※ 3月22日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	坂戸ディプロマッツ	6	0	0	19	5	+14	18
2	アレグレ	4	1	0	26	3	+23	13
3	大宮FC	3	1	1	7	2	+5	10
4	ベレーニア	3	0	2	21	6	+15	9
5	クラブ与野	2	2	1	11	10	+1	8
6	KASUKABE	2	1	2	5	5	±0	7
7	武南Jr	1	1	3	9	7	+2	4
8	カムイJr	1	0	4	6	8	-2	3
9	アスミ	1	0	4	2	12	-10	3
10	東浦和中学校	0	0	6	0	48	-48	0

● 2部リーグ

※ 3月22日現在

順位	チーム名	勝	分	負	得点	失点	差	勝点
1	FC深谷	5	1	0	15	6	+9	16
2	1FC川越水上公園	4	0	1	15	6	+9	12
3	HAN FC	4	0	1	12	4	+8	12
4	コルージャ	3	1	1	16	4	+12	10
5	フェスタ	2	1	2	8	7	+1	7
6	草加Jr	1	2	2	8	9	-1	5
7	東春'72	1	2	3	9	16	-7	5
8	成立ゼブラ	1	0	4	5	9	-4	3
9	大原中学校	1	0	4	4	19	-15	3
10	土合中学校	0	1	4	3	15	-12	1

浦和レッズジュニアユース、8年ぶり2度目の優勝

高円宮杯U-15 第26回全日本ユース(U-15)サッカー選手権大会 ～大橋浩司監督インタビュー

「上の年代で勝てなければ、我々の責任」

時期的に遅くなりましたが、大橋監督のインタビューをお届けします。日本女子代表監督をはじめ、大宮アルディージャのヘッドコーチなどを歴任されている大橋監督の育成への思いを感じ取っていただければ幸いです。

—厳しい戦いだったと思いますが、決勝は大宮との対戦でした。

決勝戦をアルディージャさんと戦えたことは、指導者としても光栄なことでした。今回は勝ちましたが、これからも切磋琢磨してレベルアップしていきたいものです。

—今回のポイントはどこにあったのでしょうか。

私はトーナメント大会の場合、トーナメントに入るまでが勝負だと思っています。ポイントは毎試合すべてですね。今回は全国の大会の最後ということもあり、しかし関東リーグ(優勝)から2ヵ月も開いていました。こういう場合、多くの指導者はこれまでのことをやり続けるのですが、私は一度これを壊しました。今までのままならば物足りないと思いましたし、チームとしても一回り大きくしてから、この大会にチャレンジしたいと考えたのです。

だから変革しました。メンバーもやり方も含めて。一種の賭けでした。ただ選手たちは一生懸命サッカーに取り組んでくれますし—これは、ここまで育ててくださった指導者の皆さんのおかげですが、彼らならば問題が無いと思い、2ヵ月間、チャレンジしました。

2週間前に関西遠征に行き、ガンバとセレッソと練習試合を行い、手ごたえをつかみました。1週間前にはマリノスとやり、ここではチームワークがどこまで上がっているのかを確認できましたので、楽しみな大会となりました。

ただ、我々の組み合わせは厳しくて、先制するも追いつかれて、なんとか突き放すという厳しいゲームが続きました。しかしながら、追いつかれても突き放すことができたのは、一回チームを壊したからであり、技術面、精神面でも一回り大きくできたからの成果だったと思っています。マリノス追浜、レイソル……厳しい試合でした。

決勝については、負ける気がしなかったですね。それは過信ではなく、やってきたことに確信を持っていたからです。この年代で身に着けなければならぬ攻守の原理、原則を徹底させました。戦術ではなく、10年、20年経っても変わらないものを身に着けさせたからの結果だと思うのです。またそれはレッズの育成が大切にしてきたものです。

—なるほど。そこで「チームワーク」という視点が出てきましたね。

サッカーはミスがたくさん起こるゲームです。味方のミスをど



今回的高円宮杯より (写真提供 浦和レッドダイヤモンズ)

うカバーするのか。ミスしても信頼できるプレーができるかどうか。そういう考え方を浸透させることが「チームワーク」につながると思います。人を育てることをレッズはすごく大事にしています。もちろん、私は就任して1年目であり、このような指導は1年で身に着くことではないのですが、この1年は強調していたのは事実です。

女子代表監督などを経験した中、大事なのは技量ではなく「これが最後」「ワールドカップに行けるかどうか」というぎりぎりのところで、人と人が繋がり続けられるかどうかをストレートに感じました。人と人がぶつかる中で感情や思いやりが出てくるのです。そこで大事なものは、人を伸ばすのは“考え方”なのだと。

だから、大会中は試合中に声をかけることはほとんどしなかったです。ほぼ自分たちで問題解決をしていました。やはり、自分たちで解消できる力が無ければ、勝ち上がってはいけないものです。でもこれは、一般社会人でも同じことだと思うんですよ。必要だと思います。そういう能力も身に付けさせながら、技術面などサッカーに必要な能力を身に付けてほしいと願っています。ただ、最近の子どもたちを見ているとインプットはできるのですが、アウトプットがなかなかできない。もしかしたら、我々がそうさせているのかもしれない。アウトプットできる環境を削っているのかなと思うこともありますね。

—指導者のスタンスや意識で選手は変わるということですね。その中でスポイルしてしまうこともあると。

確かに。ただ、埼玉の指導者、特にジュニアの指導者はありがたい存在です。これまで埼玉はサッカーに熱狂的な県だと思っていた。それが埼玉の育成の現場に出て感じることは、サッカーを好きで好きでたまらない子どもたちを育てているんだと思うようになりました。こんな“サッカー小僧”がたくさんいる県はないでしょう。

—ありがとうございます。これからの伸びしろに期待したいところです。

今年の国体は期待できるのではないのでしょうか。ただ、今回勝った彼らが上の年代で勝てなかったのであれば、僕の責任だと思います。一人ひとりの伸び率こそ、我々指導者の責任です。だから、幹となる部分を指導しないといけないのです。10年後のサッカーを理解していないといけないと思いますし、目先の勝負ではなく将来を見据えた指導が求められるのです。

実のところ、子どもたちと私とでもギャップはあるんです。彼らは1年間ずっと「日本一になりたい」と言っていましたが、私は将来世界に通用する選手にしたいと思っていたのです。ただ子どもたちが「将来、いい選手になりたい」では困るんですね(笑)。やはり目の前の試合で勝ちたい、活躍したいという子どもでないと。

将来を見据えた指導をすれば、必ず結果はついてくると思います。何かが抜けていると結果はついてきません。選手以上にサッカーを学び、選手が考えていることを理解しようと努力しないとダメです。

レッズは地域の皆さんに支えられているクラブです。アルディージャ、SFAとうまくタイアップをしてよりよいサッカー環境を作っていくことが責任だと思います。協力していきましょう。これからもよろしくお願いします。

—こちらこそ、よろしくお願いします。



大橋浩司 監督

インフォメーション

● FIFA U-17 (17歳以下) 女子ワールドカップ優勝

GK 1 松本真未子

(松戸フットボールクラブ U12 → 浦和レッズジュニアユースレディース → 浦和レッズレディースユース)

MF 8 長谷川 唯

(戸木南ボンパーズ → 戸田南 FC スポーツ少年団 → 戸木南ボンパーズ FC → 日テレ・メニーナ → 日テレ・ベレーザ)

FW 14 大熊良菜

(新座陣屋キッカーズ → JFA アカデミー福島)

MF 15 長野風花

(FCバルティレ → 浦和レッズレディースジュニアユース → 浦和レッズレディースユース)

DF 16 遠藤 優

(浦和大門サッカー少年団 → 浦和レッズジュニアユースレディース → 浦和レッズレディースユース)

DF 17 南 萌華

(吉川ホワイトシャークサッカースポーツ少年団 → 浦和レッズレディースジュニアユース → 浦和レッズレディースユース)

● グループリーグ

日本 2-0 スペイン

日本 10-0 パラグアイ

日本 3-0 ニュージーランド

● 決勝トーナメント

準々決勝 日本 2-0 メキシコ

準決勝 日本 4-1 ベネズエラ

決勝 日本 2-0 スペイン

“リトルなでこ” が快挙を成し遂げてくれました。県内から6名の選手が活躍してくれたことを誇りに思います。おめでとうございます。

● JFA ガールズサッカーフェスティバル 2013 in 埼玉スタジアム ~ NHK 女子サッカー教室 ~

2月2日(日)に埼玉スタジアム第4グラウンドとボールルームにおいて表題のフェスティバルが開催されました。参加者は中学生年代の女子選手 102名。午前中は大宮アルディージャのスタッフの皆さんによるサッカークリニック、午後はNHK女子サッカー教室として、講師に佐々木則夫なでこジャパン監督と元なでこジャパン主将の宮本ともみさんを迎えて行われました。お二人はピッチだけでなく、講演もしていただき、子供たちは貴重な時間を過ごしたようです。



編集後記

●埼玉スタジアムで起きた問題。選手・応援運営・地域社会等で問題の大小はありますが、皆さんでもう一度見直す必要があるとは思いませんか？(坂庭)

●先日、水戸偕楽園に行き梅をみてきました。そして次は満開の桜を満喫。今年は自然を通して四季を感じたいと思います。(こいち)

●先日、何年ぶりに風邪で熱を出しまし

た…。風邪を引いても体調を崩しても、ここの数年熱が出る事はなかったので、体温計の数値に一人で驚いて…(笑)。やはり健康で元気なのが一番ですね!(かのう)

●また、この季節がやってきました!花粉症!! 今年はまだかかるとか一時思いましたが、やはり花粉症は治らないみたいで…今年も花粉症と戦います(笑)(佐々木)

●無観客試合は寂しいものでした。入場の

拍手も無ければ、終わった後のねぎらいの拍手も無いのですから。SFAは「フェアプレー日本一を目指しています」。レッズの皆さん、ファン、サポーターの皆さんにもご理解いただきたいものです。誰かが伝えるだろうではなく、みんなでアクションを起こさなければなりません。ご理解、ご協力をお願い致します。最後になりましたが、鶴岡岡医事委員長、お疲れ様でした。(荒川)

● JFA レディースサッカーフェスティバル 2013 in 埼玉スタジアム

2月23日(日)に埼玉スタジアム第4グラウンドにおいて、今回は「レディース」のフェスティバルが開催されました。参加者は40名。午前中はモアスマイルズの皆さんによるサッカークリニック、午後はチームを組んでそれぞれ4試合ずつを楽しみました。18歳以上の皆さんがどのような形ならば参加しやすいのかを引き続き考えながら、場の提供をしていきたいと思ひます。

● 規律委員会 ~ 規約改正

この4月1日から、いくつかの規約改正が行われております。JFA ホームページにて、ご確認ください。

・ 司法機関の独立と二審制の導入 ~ JFA に不服申立委員会を新設

◎司法機関(規律/裁定委員会)が独立することで、ここでの決定が最終的なものであり、理事会の干渉を受けない

・ 出場停止の消化に関するルールの変更

◎同一大会における次の試合に適用。消化できない場合は、次の公式試合に適用される

・ FIFA 規定に合わせた懲罰の重さ/表現の微調整

◎「差別」に対する懲罰規定の追加

● 2013年度 JFA スポーツマネジャーズカレッジサテライト講座 in 埼玉、修了

今年度もSMCサテライト講座を開催しました。受講者は22名。4日にわたる講義でしたが、楽しく基礎を学んでいただけだと思います。最終日の財務講座は毎年難しいものなのですが、こちらでもクリアしていただきました。

ここで学んだことを少しでも活かしていただければ幸いです。またこれを機会に、刺激しあえる「仲間」になっていただきたいものです。お疲れ様でした。



● WEB登録システム「KICK OFF」リニューアル延期に伴うお詫びとお知らせ

ご案内の通り、2014年4月1日より稼働開始を予定しておりましたが、WEB登録システム「KICK OFF」につきまして、一部機能を除き、『新 KICK OFF』としての稼働開始を延期させて頂くことになりました。リニューアルに際して、今まで説明・準備をしてきた中で、たいへん御迷惑・お騒がせをいたしましたこと、皆様には深くお詫び申し上げます。

県協会ホームページにJFAからのお詫びとお知らせを掲載しております。ご高覧の上、ご理解を賜り、ご協力いただけますようお願い申し上げます。